

星  
高

No.78

江津高等学校PTA広報委員会

平成29年12月20日

## PTAが町をつくる

校長 宮島 忠史

江津高校の教育重点目標の頭に「出会いを通して感動する機会を与えます」と掲げ、そのために「江津で高校時代を過ごすことの意義と目的を意識させます」としました。私たち保護者や教職員などすでに高校時代が過去のものとなった世代は、十代後半の感性が鋭敏であり繊細であったことを懐かしく思い出します。十代後半を過ごした土地の匂いは、拭いようもなく染みついています。高校時代を過ごす地を五感で感じることが、郷里への愛着を育むにとどまらず、アイデンティティの確立という意味でまさに適期であると思うのです。

高校のPTAが高校生と目的を一にして活動する機会が増えているといえます。PTAと高校生との協働により地域社会が活気づくこともあり、そうなる町おこしの契機ともなることでしょう。中学生でもなく、大学生でもなく、高校生に地域社会が期待を寄せるのは、高校生のほぼ一人前の知力と体力、内在する将来性そして何より大人が手を添えてやることのできる最後の年代だからではないでしょうか。

今夏、静岡県で開催された全国高等学校PTA連合会大会で矢上高校PTAが、研究発表のステージに立ちました。矢上高校PTAの活動は、「学校の魅力を高める事業と生徒募集への協力」が柱であり、「人的な支援、入学を希望する中学生の保護者との交流、学校と地域との連携の窓口としての役割、そして教育環境の整備がPTA

に求められている」ということでした。矢上高校の統廃合が現実味を帯びてきた平成16年度以降、PTA活動の軸足は学校存続の陳情や署名活動から金銭的支援へ、そして高校魅力化の支援へと遷ってきたそうです。ただ単に高校を残すというのではなく、「どうしたら高校の魅力化をとおして地域社会を維持できるか」に発想を転換し、高校の魅力化事業にPTAも一緒になって奮闘している切迫感が伝わってきました。

多感な十代後半を過ごす場としての高校が失われたら、郷里の土地の匂いが染み付いた人を育てることはできません。高校と不即不離にあるPTAが町をつくるということは、あながち的はずれな話ではないと思います。

## 豚汁作りに参加して

PTA副会長 森脇 美奈子

11月14日(火)ロードレース大会がありました。朝、雨が降り中止になるかと思われましたが、素行の良い生徒たちの願いにより開催されました。この日は環境保健委員会のお母さまたち13名が集まり、豚汁作りを行いました。予定340杯の豚汁作り、普段見ない材料に皆さん唖然とされていました。しかし、さすが主婦、手際よく材料切りが始まりました。皆さん初めて参加されたとは思えない段取りの良さでした。材料を切りながら子供の話や学校のことを



話したり、世間話をしたりして時間は過ぎていきました。

11種類の野菜、まる姫ポークを大きな鍋で煮込みます。白玉団子は下茹でし、均等に白濁に盛り付けました。大根が無いのに我慢できず、買い出しに行ったことや子供たちが帰って来たのに味付けが間に合わず、しかも味噌が足りずにまた買い出しに、なんてハプニングがありました。でも、子供たちが「美味しかった」と笑顔で言ってくれたことで、そのハプニングも後で笑い話となりました。年に一度、お母さまたちが集まると行っ豚汁作り、普段話したことがない人たちと話せる良い機会です。ぜひ、来年も行っていきたいです。

今回、参加していただいた役員のお母さまたちのご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



中国・四国PTA連合大会

### 第59回中国・四国地区高等学校PTA連合大会山口大会に参加して

PTA副会長 安永 聡

『育て、今生きるチカラ！PTAは子供達の応援団』今、変革の時。さらに一歩踏み出そう。』を大会テーマに7月14日に山口県下関市の海峡メッセ下関を会場として、参加者約1700人で開催されました。本校からは山田PTA会長、佐々葉祐久先生と私の3人で参加してきました。「これからの高校教育とPTAの役割」と

題し文部科学省初等中等教育局財務課長伊藤学司氏の講演を拝聴しました。

10〜20年程度で47%の仕事が自動化され、今は存在していない職業に就き、週15時間働けば済むが働けない人も出てくると予測されています。

PTAは学校に最も身近な「社会」、多士済々な人々の宝庫なので学校・先生を支援して下さい、とお話しになり、PTA会員として学校との連携の必要性を改めて考えさせられる講演でした。

アトラクションでは、「海峡上臈絵巻」が披露され絢爛豪華な神事は感動的でした。研究協議は、今まさに我が島の課題でもある高校存続の実例として同郷の島根県立矢上高等学校が高校存続と魅力化し地域と学校を結びPTAと題して発表されました。

学校と繋がり、子どもと繋がる学校とともに育む人間力。香川県立高瀬高等学校の発表では我が校の1、2年生に導入されたクラウドプラットフォームシステムの説明もされました。

この大会に参加させていただき、PTA活動の大切さ学校とのつながりの大切さを感じました。

今まで色々な大会に参加していつも思うのですが、会長・副会長など限られた参加者になっていきます。来年度は愛媛大会です。多くの会員の皆様の参加を期待します。



全国PTA連合大会

### 全国PTA連合大会に参加して

PTA副会長 布施 憲祥

去る8月24日、25日に静岡県で開催されました、「第67回全国高等学校PTA連合大会 静岡大会」に校長先生と一緒に参加させていただきました。私からは基調講演について報告させていただきます。

基調講演の講師は、NHK大河ドラマの時代考証なども担当されている静岡大学名誉教授の小和田哲男氏でした。

講演の中で小和田氏照らすは、「歴史は過去を映し出し、未来を。ただ過去の出来事ではなく、未来につながっている。先人たちの生きざまから未来を生きるヒントをつかむことが大事である。そういう意味で歴史は鏡である。」とお話になりました。更に「武将は、自分の経験談を子どもや孫たちに話しているが、中には分かり易いように文章に残した武将もいる。」とのことでした。こうした武将たちの残した言葉が、子育てと人づくりのヒントになるのではないかと感じました。

確かに現代の生活や教育にも役に立ちそうな昔の人のものがたくさんあると感じますので、取り入れられそうなものがあれば取り入れたいと思わせられる講演でした。最後になりましたが、このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。

### PTA進路講演会

進路指導委員長 服部 和之

リクルートマーケティングパートナーズから屋敷喜美子氏を講師に招き、進路講演会を実施しました。当日は18名の保護者が出席され、1年生全員と一緒に講演を聞きました。

1年生が直面している文理選択が主なテーマでしたが、その選択をするにあたって必要な考え方もお話しいただきました。今、すでに将来やりたいことが決まっている場合は「山登り型」、まだ決まってい

ない場合は「いかだ下り型」という二つの考え方が示されました。「山登り型」は将来の目標に向けて計画的に必要なことを考えるやり方で、「いかだ下り型」は目の前のことに懸命に取り組んで自分らしさを発見する考えです。

そのどちらにしても、「やりたいことは知っていることの中からしか見つからない」のです。したがって、生徒・保護者とも知っていることを増やす必要があります。世の中には17000種類以上の職業があるそうです。私たちはそのうちのどれだけを知っているでしょうか。まずそこから始めることが大切だと痛感させられました。その他、具体的な事例が多く取り上げられ、今、そして将来を考えるヒントがたくさんあった講演会でした。出席できなかった1年生の保護者の方は、ぜひお子さんの資料を一読されることをおすすめします。

### 奉仕作業

環境保健委員長 岩崎 由紀子

8月19日早朝より毎年恒例の親子奉仕作業が行われました。

すでに広い校庭は除草されており奉仕作業の為に草が残されている状態でしたが手ぐわや、カマ、草刈機を使って作業を行いました。当日は真夏の土曜日、とても良い天気で「これじゃ日焼けをするな」と思いながら行いました。他の保護者さんと話をしながら行いあつという間に作業時間終了の知らせが入りました。1時間程でしたが校庭を左右に分けていたネットの下草が全てなくなり綺麗になりました。これで2学期早々に行われる体育祭も万全です。

江津高校に長男がお世話になり、次男、長女と今年で5年目になります。校舎側から校庭を見ると以前は草だらけだった所まで綺麗に除草が行われており広い校庭がさらに広く大きく見えました。誰がして下さったのか有難い事だと思いました。

作業後はジュースを1本ずつ頂き解散となりました。奉仕作業に参加された生徒の皆様、先生方、保護者の皆様お疲れ様でした。来年もどうぞ宜しくお願い致します。